

# 女夫石遺跡発掘調査速報

## No.14

今回は9月17日に開催した体験発掘と18日に開催した見学会の様子をお伝えします。体験発掘には約70名の参加があり、見学会では約120名の見学者がありました。体験発掘ではみんなワクワクして、地面から現れる土器にドキドキ?していたみたいです。見学会では、遺跡のナマの状況をじっくり見ていただきました。



夢中で発掘しているとところをテレビ取材もきました。参加者の皆さんが感動している様子をニュースで見た方も多いのではないですか?NHK・YBS・UTYのニュースで流れたみたいですよ



説明を受けてから、さー発掘だ!どんな土器が出てくるのか?大人も子供もワクワク、休憩時間も忘れるくらいでした!発掘の後はサプライズ企画「女夫石遺跡の土器拓本でしおり作り」も開催!世界に一つしかないしおりをみんなで作りました!



沢リ: 今日(17日)はたくさんの親子が来てるね。テレビカメラさんもいるよ!一体何があるんだろうね?

マキ: 体験発掘会があるんだってさ!女夫石縄文人の道具を発掘してナマで見てもらう企画なんだって。県内の方を中心に午前・午後で約70人の参加があったんだって、すごいね!

沢リ: みんな初めての発掘に最初は戸惑っているけど、土器が出てくると歓声があがるね。

マキ: 発掘が終わると、次は女夫石遺跡から実際に出土した土器の拓本を取るんだって!取ったらしおりにしてくれるそうだよ。

沢リ: 発掘したものは持ち帰ることが出来ないけど、拓本なら大丈夫だもんね!

マキ: 明日(18日)は見学会があるそうだよ。これまでの調査で分かったことやこれからの課題なんかを実物を見て紹介してくれるんだってさ。

沢リ: 明日も見にこなくちゃね!それにしても体験発掘会はまたないのかな?あれば今度参加してみたいな!

マキ: ...どうだろうね?(つづく)

見学会は3回に分けて開催したから、各回40人程度で、説明を聞いていただいた人も紹介側もお互いに良かったみたいです。両日とも、多くの人の手伝いの中で順調に開催できました。本当に皆さんに感謝です。これからもよろしくね!?



次のページには見学会の配布資料が載ってるよ!



# 女夫石遺跡現地見学会資料 — 韮崎市穂坂町宮久保女夫石 —

2006.09.17 (Sun)

女夫石遺跡は「めおとしいせき」と呼びます。韮崎市穂坂町宮久保女夫石という場所にある遺跡なので、この名前がつけました。女夫石遺跡の北側には唐沢（権現沢）が流れています。その唐沢を挟んで対岸に地名の由来になっている女夫石があります。

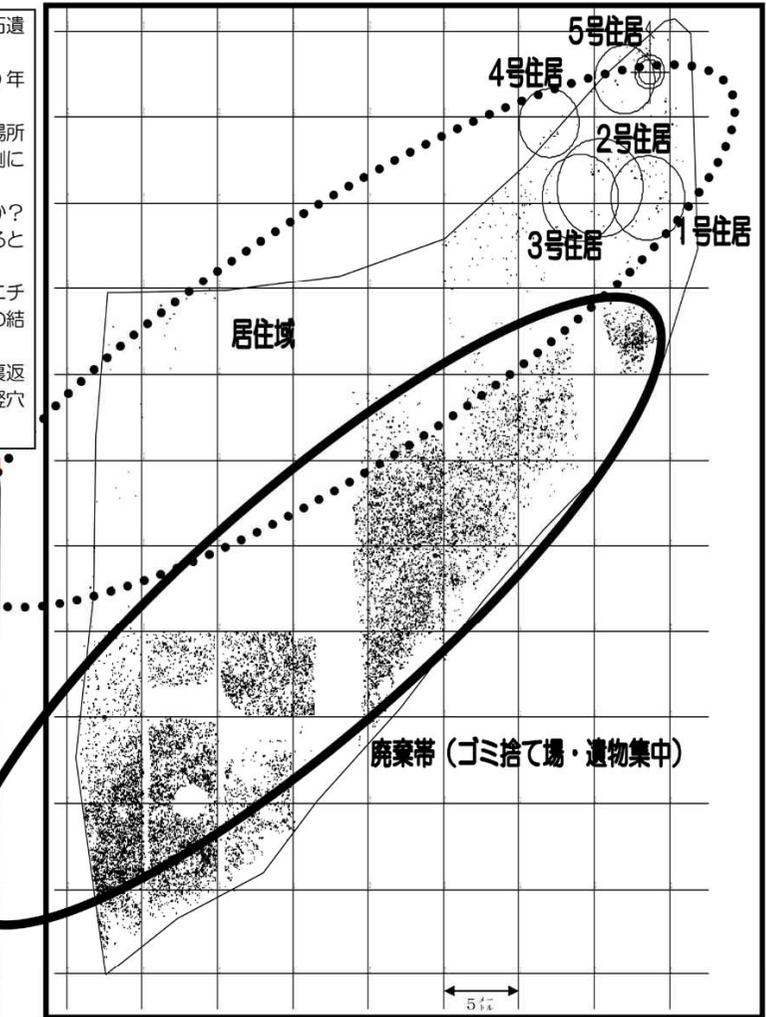
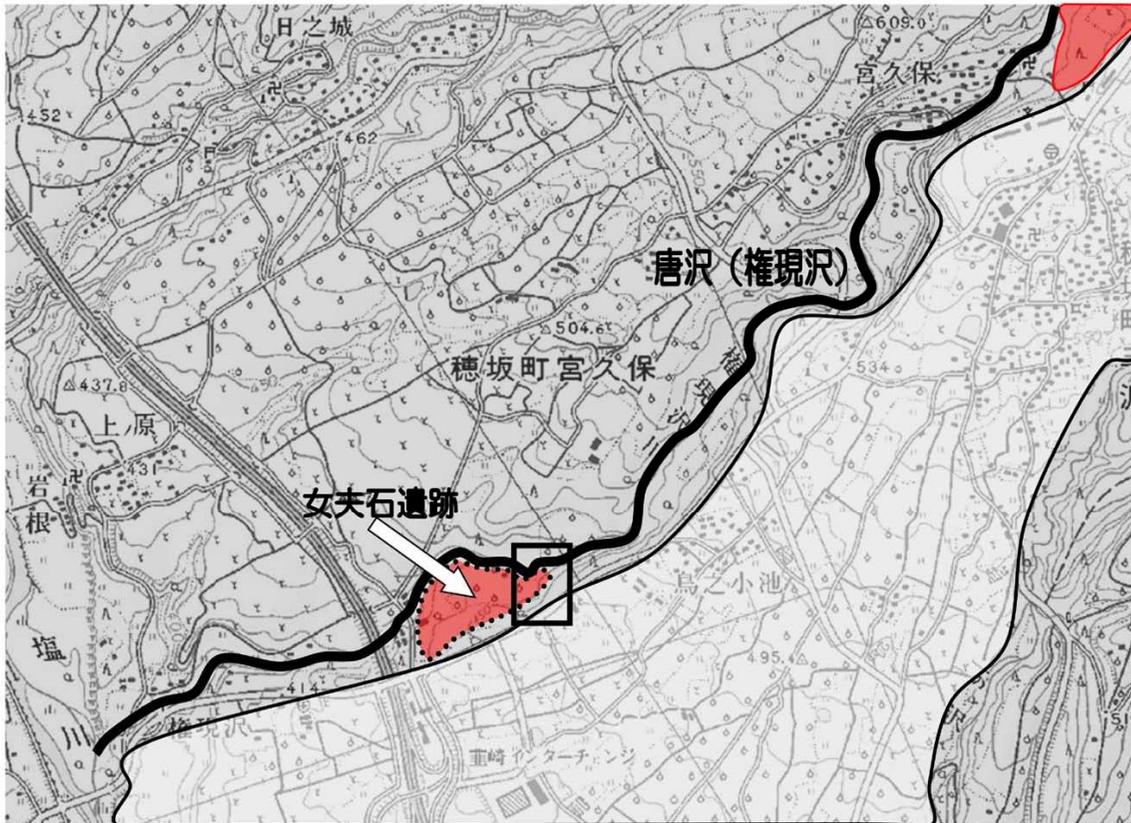
女夫石遺跡は縄文時代と平安時代の遺跡であることが分かっています。今回は縄文時代の集落跡の一部を公開します。縄文時代中期（4500年前～4000年前）、土器型式の名前でいうと勝坂式と曾利式と呼ばれる土器が作られた頃です。

調査では、女夫石縄文人の住まいが作られた地区（居住域）と土器や石器などを廃棄した地区（廃棄帯）と一緒に確認されました。廃棄した場所は決して珍しいものではありません。縄文時代の集落には廃棄した場所が必ずあるはずなのです。山梨県内ではこのような廃棄帯を調査した例に釈迦堂遺跡群（旧一宮町・旧勝沼町）がありますが、調査例は少ないです。

居住域と廃棄帯の空間配置が一般的な状況とは違うということが特徴といえます。なぜ、居住域よりも上方に土器や石器を廃棄しているのか？このような遺跡が他にあるのか？これから検討しなければならないことは山積みですが、居住域と廃棄帯との関係を調べるための好資料であるといえます。

また、廃棄帯の中には巨大な岩があり、全体の調査は済んでいませんが、そこからは石棒（せきぼう）3点、土偶（どぐう）約20点、ミニチュア土器2点など、縄文時代の精神世界を反映しているかもしれない遺物が集中傾向にあります。これが偶然なのか、縄文人の意図した行為の結果なのかは慎重に検討していかなければなりません、興味のもたれることではあります。

第1号竪穴住居跡からは、土偶4点・耳飾1点・ミニチュア土器1点・匙状土製品1点・石皿2点などが出土しています。石皿は2点とも裏返した状態でした。一つの住居跡から土偶が4点出土する例は多くはありません。竪穴住居の作られた時代は勝坂式の終わり頃です。これから竪穴住居跡の調査が進みますが、女夫石縄文人らしい特徴が他の遺跡と比較してあるのかもしれないかなど、様々な検討課題があります。



第3図 女夫石遺跡調査区全体図

第2図 女夫石遺跡位置図・調査区範囲（四角囲い）



廃棄帯を調査し始めた頃の様子です。縄文人がこの場所に最期に廃棄行為を行なった最後が、縄文時代中期後半の曾利Ⅴ式（そりごしき）と呼ばれる土器が作られる時であったことが分かりました。  
大きな岩は少しだけ頭を地面から出しているような状況だったようです。

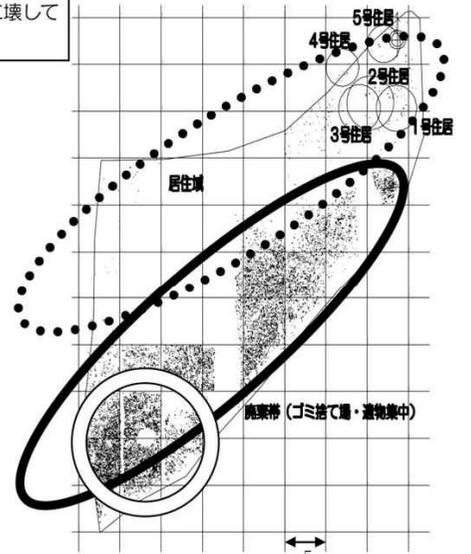


いろいろな部位の土偶が廃棄帯から発見されています。どれも壊れた状態で出土しています。壊れてしまったから廃棄したのか、故意に壊して廃棄したのかは、古くから議論されてきました。最近、故意に壊して廃棄するという説が有力なようです。



石棒（せきぼう）

廃棄帯の縄文時代中期後半（曾利Ⅱ式）頃の様子です。大きい岩ははっきりと認識できます。周辺からは石棒2点、ミニチュア土器2点などが出土しています。石棒は男性のシンボルに似た形をした石器です。現代でも同じようなもので子孫繁栄を願うために祀られている神社などがあります。また、妊娠した女性を意識して作られたといわれている土偶も発見されています。  
さらに、この層よりも深いところから縄文時代中期中頃（井戸尻式）の土器がまとめて出土しています。  
このことから、この廃棄帯が縄文時代中期中頃から中期後半の500年程度の間に形成されたものであることがわかってきました。



廃棄帯の中の巨大な石の周りの調査状況

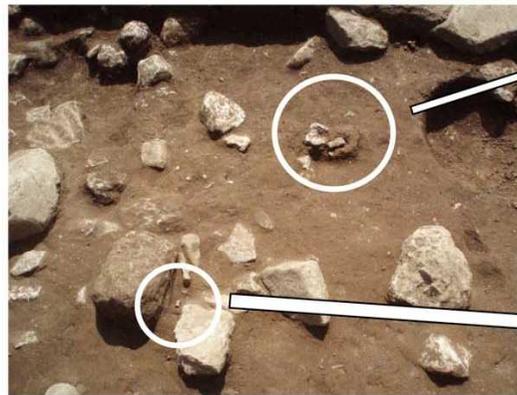


1号竪穴住居跡は、調査区が一番東側から発見されたものです。直径は約4mで、深さは15cmの少し形の崩れた円形をしています。  
縄文時代中期の中頃で、土器型式の名前では井戸尻式（いどじりしき）です。廃棄帯で一番下の層から発見される土器とほとんど同じ時期のもので、  
竪穴住居の中にたまった土の中からは土器の他に、完全な形の石皿2点、土偶4点、耳飾り1点、ミニチュア土器1点、匙形土製品1点などが出土しています。女夫石縄文人が竪穴住居を廃棄する時の様子がよくわかります。



埋壘

調査する直前の埋壘（うめがめ）の様子です。一体どんな模様の土器なのかは自分の目で確かめてください。



土偶

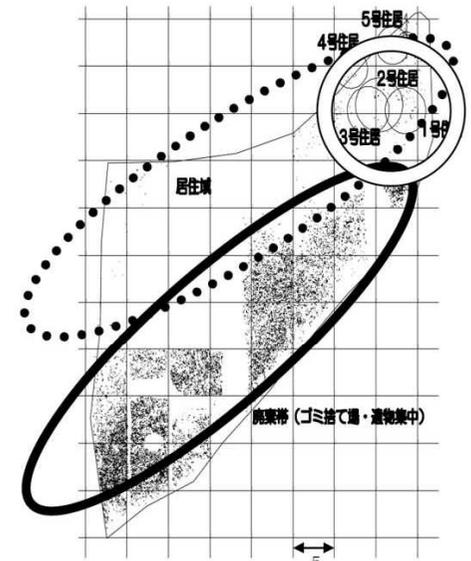


耳飾り



土偶

1号竪穴住居跡からは、土偶が4点出土しました。脚部1点・胸部2点・頭部1点です。頭部は住居跡の床面からまるで顔を出すかのような状態で出土しました。偶然なのか、縄文人の故意によるものなのかは、断定できませんが、現地でそのかわいらしい表情を見てください。



遺跡の中で最初に調査した竪穴住居の調査状況

荏崎市教育委員会 教育課 生涯学習担当  
0551-22-1111 (内269)